大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

Press Release

取り組み

2026年3月30日

＼学生の「困った･･･」を可視化で解決！／

発達障害のある学生を支援する タスク管理アプリを開発！

【公開：4/3（金）14時～「ハッタツソンフェス」@QUINTBRIDGE（大阪市都島区）】

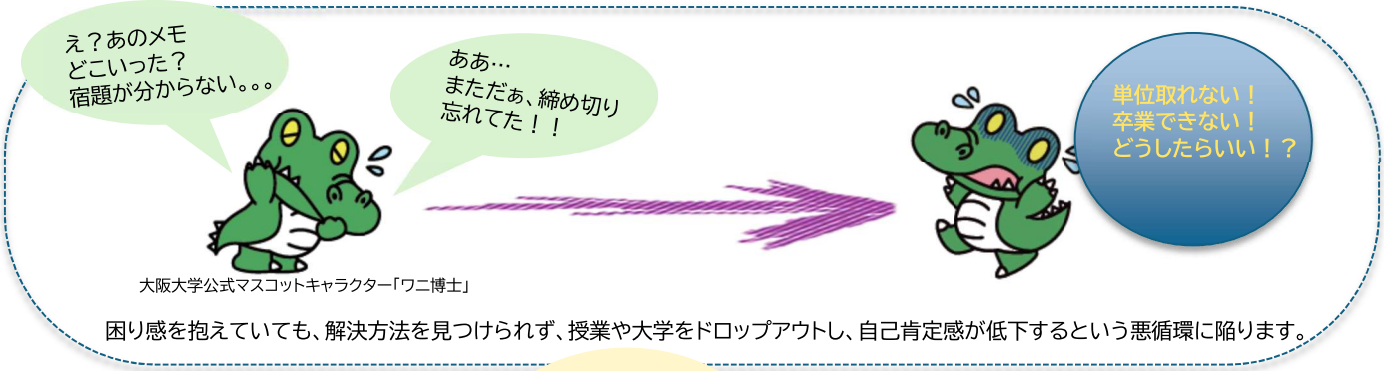
❖ 概要

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センターの 前田 由貴子 特任助教（常勤）は、発達障害のある学生のためのタスク管理可視化アプリ「タスクコム」を開発しました。タスクコムは、「世界自閉症啓発デー」及び「発達障害啓発週間」に合わせて**4月3日（金）**に大阪市内で開催される、多様な認知特性を持つ人々が共に創り上げるイベント「ハッタツソンフェス2026」で公開されます。

大学には、留年したり、休学したりする学生がいます。背景のひとつに、発達障害でタスク管理がうまくいかず、単位がとれないことなどが挙げられます（日本学生支援機構『教職員のための障害学生修学支援ガイド（平成26年度改訂版）』）。例えば、発達の特性を持つ学生は、優先順位をつけて計画的にタスクに取り組めなかったり、課題の締切日を書いたメモをなくしたり、課題が作成できても提出することを忘れたり、忙しくなると課題があったことすら忘れてしまいます。

タスクコムでは、課題の内容と締め切り、授業出席状況、課題提出状況が把握でき、課題通知の有無、課題遂行を学生本人にリマインドします。課題にどれだけの日数を費やしたのか把握することで、計画的に課題に取り組む練習を行うこともできます。

イベント当日は、取材いただけるメディアの方に、実際のアプリを活用している様子などを撮影いただけます。本アプリおよび当日イベントへの積極的なご取材・ご出席をお願い申し上げます。



大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」

困り感を抱えていても、解決方法を見つけられず、授業や大学をドロップアウトし、自己肯定感が低下するという悪循環に陥ります。



アプリを活用することで苦手を克服し、社会人基礎力の向上や、長所となる特性のさらなる躍進といった可能性が高まります！

❖　タスクコムについて

【特　徴】

・学生が課題を自ら管理し、進めることができます。

・進捗が思わしくないと、アラートが出て支援者に支援要請を促せます。

・支援者との定期的な相談時に、課題の取り組み状況が視覚化できます。

【仕　様】

・時間割　・授業出席状況　・授業に紐づく課題一覧

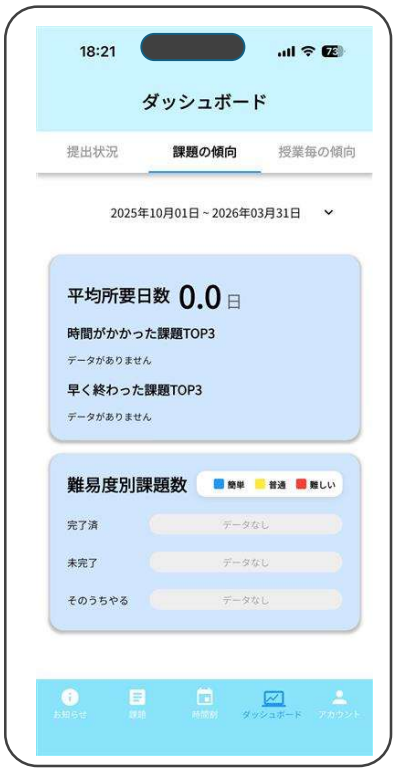
・課題取り組み積算日数　　・課題登録し忘れ防止リマインド

・課題遂行促進リマインド　・授業成績評価方法メモ

・提出期限超過通知　　・支援要請警告　・課題提出率　・ウィジェット機能

【開　発】

本アプリ開発は、JSPS 科研費 [24K16731]および公益財団法人 CTC 未来財団「障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業 2023 年度助成」を受けて行われました。



タスクコム　アプリ画面

【独自性】

・学生が課題取組日数を把握することで、計画的に取り組む練習に繋がり、自己管理能力が醸成されます。

・成果の可視化により、記憶が難しく、自己評価が低下しがちな学生の自己肯定感をあげることにつながります。

・アプリを用いた支援介入により、支援者と発達障害学生の効率化なコミュニケーションが進みます。

・アプリを活用することにより、タスク管理に要していた、支援者の人的コストの削減が期待できます。

【インストールについて】

本アプリは研究用のため、一般用のアプリストア等で配布しておらず、研究参加の同意を得て提供しています。ご使用を希望される方は、前田由貴子特任助教（常勤）までご連絡ください（maeda.yukiko.tkx@osaka-u.ac.jp）。インストールするための QR コードをお知らせいたします（メディアの皆さまにも、アプリの使用感などをご確認いただけます）。

❖　ユーザーテストについて

2025 年 1 月から 2 月にかけて、7 名の発達障害学生に、以下 10 項目から構成されるアプリのユーザーテストを行ったところ、5 段階評価で、3.33-4.5 の評価を得ました。取り組むべきタスクの管理しやすさについて、ユーザーから肯定的な評価が得られたと考えられます。支援者と発達障害学生間のコミュニケーションの効率があがり、発達障害学生の支援介入に有用であったこともうかがわれます。インタビュー調査からは、注意欠如多動性障害（Attention Deficit Hyperactivity Disorder：ADHD）の学生が、自身の ADHD 特性についての自己理解を深め、自身の問題への対処方法を考えやすくなることも示されました。

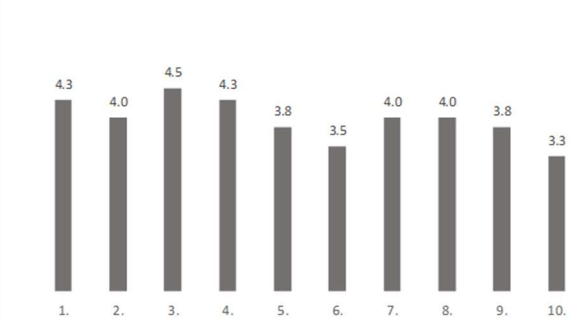
この結果から、本製品は、今後、以下のような展開が考えられます。

大学で導入している、オープンソースの学習管理システムと連携することで、学生の課題管理をよりきめ細

やかに把握し、潜在的な支援ニーズをとらえ、適切な支援介入のタイミングをはかりやすくなることが予想されます。

また、タスク管理能力を向上させることは、**大学生だけでなく社会人に対しても求められる**ため、社会人を対象としたアプリケーションへの汎用性も期待できます。さらに、今後の可能性として、使用データを AI で分析することで、今まで「発達障害の個人差だと捉えられていたものが、実は様々なサブタイプである」ことを同定することができると考えます。発達障害学生の支援方法をサブタイプ化できれば、**発達障害学生の個人差に対応するための専門的な知識や経験が不十分であっても、サブタイプ別に有効な支援を行うことができる**と思われます。引き続き、使用している学生の意見を取り入れながら、さらにユーザーフレンドリーなアプリへと改定予定です。

1. 時間割を把握しやすい	4.3
2. 授業の出席状況を把握しやすい	4.0
3. 取り組む必要がある課題を把握しやすい	4.5
4. 取り組む必要がある課題の提出期限を把握しやすい	4.3
5. 課題に取り組む際に記録をつけることができる	3.8
6. 授業の予定や成績評価について把握しやすい	3.5
7. 支援者と情報を共有する際に有用である	4.0
8. 支援者に相談するタイミングを知るために有用である	4.0
9. 課題に関する予定管理がしやすい	3.8
10. 課題完遂に必要となる期間を予測しやすい	3.3



❖ 「ハッタツソンフェス 2026」について

https://fes.hattatuson.com/2026/



【日時】４月３日(金) 14:00 ～ 20:00 (受付:13:30～)

※途中休憩あり、途中入退室可能です。

【開催場所】 QUINTBRIDGE （クイントブリッジ）

・NTT 西日本が運営するオープンイノベーション施設

・大阪府大阪市都島区東野田町４丁目15－82

・アクセス:京橋駅(JR大阪環状線、JR東西線、JR片町線、京阪本線、大阪メトロ長堀鶴見緑地線の各線)

オンライン配信:Youtube Live を用いた配信を予定(形式は変更する場合があります)

字幕配信:UDトークを用いたリアルタイム字幕配信の提供を予定しています

【対象者】 発達障害の当事者、企業・自治体関係者、デザイナー、エンジニアなど、多様な視点で新しいシステムやサービスを共創したい人々

【講演者】 Jaunita Flessas、 北澤 誠男、 高田 裕美 ほか

【参加費用】 無料

【申し込み】 事前申し込みが必要 https://hattatusonfes2026.peatix.com/view

【主催】 合同会社 Ledesone （レデソン）

【後援】 大阪府、大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター

ハッタツソンフェスは、発達障害や見えづらい困りごとを起点とした取り組みを社会に浸透させることを目的としたイベントです。専門家や当事者によるトークセッション、企業の取り組み紹介、当事者視点から生まれたサービス・製品の展示ブースなど多彩なプログラムを実施します。今回は ４ 月 ３ 日に大阪・京

橋の会場とオンラインのハイブリッドで開催します。

タスクコムについては、15時05分からの大学による取り組みセッション「**大学生の課題管理を見える化する「タスクコム」アプリの開発**」にて前田由貴子が発表を行います。